

プロジェクト活性化のための心理学プロジェクト

大阪大学大学院工学研究科
電気電子情報工学専攻教授

森 勇 介

工学研究科に所属する私が心理学を活用することになったキッカケは2001年に遡ります。当時、日本では米国とは異なり、なかなかベンチャービジネスの創出や効果的な産学連携や異分野連携が実行されないということが問題視されていました。私も研究開発プロジェクトを通じて産学連携に携わっていましたが、何が成功のポイントで何が上手くいかないポイントなのかが分かりませんでした。よくシリコンバレーとの比較で原因とされていました政府の支援体制など政策的な問題だけでなく、日本の文化、教育システムにも大きな原因があるのではないかと感じてはおりましたが、明確な回答を得るには至っておりませんでした。2001年1月に偶々飛行機の中で心理学者（サンフランシスコ州立大学・田中万里子名誉教授）に出会い、「トラウマ（Trauma、心的外傷）」が日本の問題の多くに関係していること、トラウマは心理学的に解消できるというお話を聞きました。一般的にトラウマは、交通事故や凶悪犯罪など非日常的な、特殊な状況に直面した時に受ける「心理的ショック」と考えられていますが、日常の生活の中での「怒られた」や「嘲笑された」など、一見軽い出来事でもトラウマになることがあると言われています。特に幼少期には、些細な出来事が、子供にとって大きな心の傷として残り、「自分は駄目な人間だ」、「好きなことをしたら怒られる」などの思い込みが形成されやすいそうです。このようなトラウマが大きく残っていると、創造性や自主性、挑戦心が抑制され、コミュニケーション能力も低下することに繋がるようです。

2001年5月、田中先生に大阪大学工学部で「新しい心理学・素晴らしい現実を築くための癒やし」という演題で講演をして頂きましたところ、会場は満席となり、講演後の質疑応答が1時間以上にも及ぶという大盛況でした。さらに、私自身がトラウマ解消のカウンセリングを受けたところ、私のトラウマもかなり取

れておりました。この即効性があるって、役に立つ心理学を活用すれば、産学連携やベンチャー創出をはじめ、多くの「日本の問題点」を解決できるとの考えに至りました。とは言うもののこの心理学を、どうやったら工学部で活用できるのかと考えあぐねておりました。すると上手い具合に、大阪大学工学部で組織活性化を目的とした大型プロジェクト「フロンティア研究拠点構想」がスタートし、従来の研究とは異なる研究テーマの募集が始まったのです。そこで「心理学的アプローチによるベンチャー企業創成」というテーマで申請し、採択されたのを機に、工学部での心理学のプロジェクトを開始しました。

このプロジェクトでは、まずは約40人の被験者（学生・教員・社会人）を募り、カウンセリングの効果を定性的・定量的に評価しました。カウンセリングは、「自分の過去を振り返って、自分で分析する」方法を採用しているので、自らが本当に直したいと考えて受けなければ効果がありません。結果としては、プロジェクト被験者の多くは、概ね「良い方向」に変化がありました。

さまざまなプロジェクトを推進していく上で、プロジェクト・メンバー間の相互コミュニケーションは、重要なポイントになります。例えば異分野連携プロジェクトでの議論の際、「自分は駄目だ」という思い込みが強いと、相手の言っていることが分からない場合や同意できない場合に、「分からない」「そうは思わない」と言えないケースが増えてきます。ここで「専門ではないので知らなくて当然だ」「妥協したら後で問題だ」と思えば、良い議論が続きます。多くの方も「そんな事は当然で、良く分かっている」と思われるかと思います。しかし、トラウマがあると無意識のうちに楽な方を選んでしまいます。「右を選べば100%」で「左は0%」のように、大きな差があれば、十分に考えて100%を選ぶことができます。一方、「右

が101%」で「左が99%」のように判断が難しい場合、トラウマがあると、自分にとって楽な方を選んでしまうようです。その差はわずかですが、(1.01)のn乗と(0.99)のn乗のように、nが大きくなれば(議論が長引けば)、最後は無限大とゼロの両極に分かれてしまいます。このようなわずかな差がコミュニケーションの良し悪しに繋がるようです。

この心理学的なアプローチを、異分野連携によるタンパク質結晶化プロジェクトで活用しましたところ、人と人とのコミュニケーションを円滑にし、プロジェクトを活性化するのに効果的でした。現在、大阪大学工学研究科で実施しています『GaN結晶に関する産学連携プロジェクト』や『社会人基礎力向上プロジェ

クト』、『キャリアデザインプロジェクト』でも、カウンセラーの方に参加してもらおう等、色々と工夫をしながら心理学プロジェクトを継続・活用しております。

<参考>

—【創晶】産学連携の失敗リスクを排除「心理療法」で異分野連携促進—

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20070110/258351/?ST=enterprise>

—ベンチャー起業には「道草的指向」が重要—

<http://www.nikkeibp.co.jp/archives/249/249054.html>

(電気 平成元年卒業 3年前期)

母校教員異動

(平成22年6月1日付迄)

専攻名	職名	氏名	卒業学科年度	異動年月日	異動内容
機械	准教授	竹内 伸太郎	機械 H8, 10, 13	22. 3. 16	採用(東京大学から)
機械	教授	池田 雅夫	通信 44, 46	22. 3. 31	定年退職
機械	教授	古庄 純次	機械 45, 47, 51	22. 3. 31	定年退職(福井工業大学教授へ)
マテリアル生産科学	教授	碓井 建夫	冶金 44, 46, 49	22. 3. 31	定年退職(福井工業大学教授へ)
環境・エネルギー	教授	加賀 昭和	機械 44, 46	22. 3. 31	定年退職
地球総合	教授	中辻 啓二	土木 44, 48	22. 3. 31	定年退職
マテリアル生産科学	准教授	左海 哲夫	—	22. 3. 31	定年退職
電気電子情報	助教	石田 智昭	—	22. 3. 31	定年退職
機械	助教	松本 忠義	—	22. 3. 31	定年退職
機械	准教授	川口 寿裕	産機 H1, 3	22. 3. 31	退職(関西大学准教授へ)
マテリアル生産科学	助教	西山 宏昭	生産加工 H13, 15, 17	22. 3. 31	退職(北海道大学准教授へ)
生命先端	准教授	西澤 典彦	—	22. 3. 31	退職(名古屋大学准教授へ)
精密・応物	准教授	影島 賢巳	—	22. 3. 31	退職(東京学芸大准教授へ)
電気電子情報	助教	宮丸 広幸	—	22. 3. 31	退職(大阪府立大学准教授へ)
環境・エネルギー	助教	山本 祐吾	環境 H11, 13, 16	22. 3. 31	退職(和歌山大学講師へ)
環境・エネルギー	講師	鳴海 大典	—	22. 3. 31	退職(横浜国立大学准教授へ)
生命先端	准教授	片倉 啓雄	醗酵 57, 59	22. 3. 31	退職(関西大学教授へ)
応用化学	講師	中野 英之	応化 61, 63, H3	22. 3. 31	退職(室蘭工業大学教授へ)
精密・応物	准教授	朝日 剛	—	22. 3. 31	退職(愛媛大学教授へ)
知能・機能	助教	小泉 雄一郎	材料物性 H7, 9, 11	22. 3. 31	退職(東北大学准教授へ)

(P.76につづく)